

# 博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



金山の勉強と砂金採り体験を楽しむ所沢市立中央中学1学年（190人）の皆様

## 博物館は開館から9年目へ、ますます元気です

4月に入り新年度がスタートしました。恒例となった親子映画観賞会も先に行われた春休みの上映会で27回を数えました。映画会を楽しみにしている子ども達も多く、「次は何をするの?」と、さらに次回に気持ちが飛んでいます。写真は、映画会の始まる前後や、また週末、博物館にやってきて遊んでいる様子です。子どもたちの笑顔と笑い声に、一般の来館者の皆様も「博物館と言うと堅いイメージがあるけれど、こうやって子どもの姿があるというのはとても雰囲気がいいですね」と言ってくれます。そんな子どもたちは、博物館でお山飾りやだんご作りなど、地域の年中行事の裏方も快く手伝っています。

子供たちにとっても安心して居られる場所、また勉強以外の多くのことも学べる場所、一定のルールのもと、博物館エントランスと多目的ホールは「こどもの居場所」として解放しています。

当館も4月24日で開館から満8年が経過、9年目に入ります。さらに元気に活動します。

子供向けプログラムの充実はもとより、これまで積み上げてきた恒例事業もさらに内容の充実を図り、また新たな事業も加えます。そして絶えず新しい情報を発信し、学術拠点はもとより、来館者の笑顔が絶えない博物館、地域活性化の拠点を目指します。

# 身延町の活性化は広域的な視点で

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一 夫

はじめに

前回の「博物館だより」で紹介しましたように、地域活性化の手段としての「第1回富士川流域王国シンポジウム」が身延町下部温泉郷のホテルで、県内外から250名以上の参加者を迎え盛大に開催され、同時に富士川流域王国の建国が宣言されました。

開会行事では、主催者であり開催町の依田光弥町長から「時代の変化や社会の成熟とともに観光も変わり始めている。今回の富士川流域王国の構想は、まさに新しい町づくり・地域再生のコンセプトになると確信します」と挨拶。実行委員会を代表して私は「富士山麓、八ヶ岳山麓に次ぐ山梨県第3の広域的観光地として富士川流域を確立させたい」と抱負を述べさせていただきました。

この運動は金山博物館の館外活動として民間レベルで取り組んでいます。博物館の広域性を活用した地域活性化運動の展開です。

## 観光行政は広域的な視点で

富士川流域王国は、山梨県・静岡県の富士川流域15市町村を中心に考えています。ピット線を引く必要はありませんが、それら市町村はそれぞれが観光行政に取り組んでいます。しかし、

この広域的な面の中で一町（市・村）だけがめきんでて飛躍的に発展するという事は過去の事例からみても考えにくいものがあります。

もっと具体的に言えば一町だけの観光行政をいつまでも繰り返しているうちに、だんだん地域が過疎化していく、その現状をやはり早く、かつ真剣に受け止めなければならないでしょう。

その具体的打開策として考えられることは、市町村の観光資源を広域的に包括し、相乗効果で総体のレベルを上げる方法です。総体が上がればそれぞれ市町村の発展に跳ね返ってきます。その方向で富士山麓、八ヶ岳山麓に次ぐ山梨県第3の広域的観光地として「富士川流域」を巨大な観光地に「商品化」する必要があります。一町だけの行政主導の観光地化はなかなか難しいものと思います。そういう意味で行政も住民も一体となった広域的な視点が問われます。

その広域的な枠組みを分かりやすくするために、「富士川流域王国」という観光の舞台を提案いたしましたところ。点から面で考える時代だと思います。面で見れば点が光ってきます。

## 中部横断自動車道がもたらす影響

富士川流域が抱えている広域的な問題点について若干整理してみる必要があります。現在、

南アルプスまで開通している中部横断自動車道、やがて近未来には全線開通の時期が来ます。すると東海道から甲府まで20~30分、これは単に交通の便がよくなると喜んでばかりいられないでしょう。バイパスが出て商店街が消滅した事例は数え切れないほどあります。この現象が国道52号線で将来必ず大きな問題に発展します。

今でも山梨から静岡へ向



第1回富士川流域王国シンポジウムの模様

う車（家族連れレジャー客など）7～8割に対し、静岡から山梨へ入る車が2～3割、中部横断道はストロー現象が起き、山梨から静岡へさらに人が流れ出るといった見方もあります。

また、2008年には静岡県島田市に静岡空港が開港予定です。その静岡市は4月1日には政令市へ移行、人口は71万人、静岡一市で山梨県の人口（80万人）に匹敵します。静岡市への毎日の通勤・通学者は5・6万人、近隣市町の比率は由比町30%、焼津市25%、藤枝市24%、岡部町23%、蒲原町19%、などその圏域人口は149万人。そのパワーは巨大です。また静岡空港の圏内には山梨県も含まれています。中部横断道を使って、静岡へ流れるストロー現象は、さらに激しくなるはずで

す。富士川流域・上流域は、それら東海地方（関西含め）の奥座敷として、どのようなコンセプトで立ち向かっていかなければならないか焦眉の急を要する問題ですが、それを阻むもう一つ問題があります。それは東海道・東名・中部横断道などで交通の便が良く、かつ土地が安いということから、興津から南部にかけて流通業者のトラックヤード（倉庫群）が進出してきている事実です。倉庫ですから雇用の機会は生まれず、観光の面からはデメリットの土地利用がまっているという現状認識は必要です。

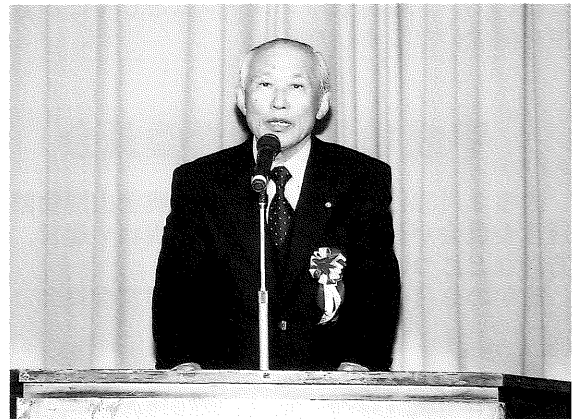
#### 富士川流域王国の運営

四国の「四万十川」を超える広域的な観光地化を目指しますが、富士川流域の自然・文化・歴史・産業遺産は、無限に眠っています。地域に住む方々が知らないものがたくさんあります。

それを観光・学習プログラムに商品化する運動です。むしろ広域的に住民の民間パワーで取り組み、行政は後押しする形での活動が望ましいでしょう。流域王国・関係市町村がそれぞれ応分の王国予算を盛って（いずれかの市町村）が会計を担当していただき、企画・運営は富士川流域王国のシンクタンクである「富士川流域dream学会」に任せる。こんな柔軟な運営ができれば、素晴らしい観光地化へ弾みがつきそうです。



開会は薩摩琵琶の「富士川の音」（奏者・清水えみ子さん）で始まった



開会の挨拶をする依田光弥身延町長



富士川流域王国の建国宣言をする名取千秋さん



王国建国で激励に駆けつけた船木上次氏（八ヶ岳連邦国・萌木の村）

# 活動報告

## わらじ作り教室

2月20日(日)

昔の子供達は誰もが作ったわらじや草履ですが、今は作り方が分からないという人がほとんどのようです。しかし実は外反母趾など現代人特有の症状に対して無理がかからない履物として、現在、非常に効果的と見直されているアイテムでもあります。

そんなわらじを実際を作ることで昔の技術を学ぶと同時に、物を作成する面白さを体験してもらおうということで、12月のネコザ編み教室に続いて、子供対象のプログラムとしてこの教室を開催いたしました。

この教室の講師には、地元の佐野日野江さんと、伊藤きよ子さんをお願いしました。藁の「ない方」から編み方まで流れるような手さばきでわらじを作っていく先生たちに対して、参加者は悪戦苦闘でした。なんとか出来上がったわらじも上手に出来ているもの、少し形がいびつなものなど様々でしたが、参加者は「こーやって作るんですね」と一仕事終えた満足感が得られたようでした。



## 平成16年度運営委員会

3月30日(水)

去る3月30日、平成16年度湯之奥金山博物館運営委員会が召集され、博物館の現状や運営、方針などについて協議されました。

昨年9月の町村合併から初の運営委員会と

いうこともあり、合併による従来との変更点などについても意見が出されました。また新年度の博物館の事業計画などについても多くの参考になる意見をいただきました。

## 平成16年度公開講座終了

4月2日(土)

昨年11月から開催してきました平成16年度公開講座が無事に終了いたしました。

1月は静岡大学教育学部教授の小和田哲男先生に「武田信玄の駿河進攻と甲斐・駿河の金山」と題してお話いただき、続く2月は「産業遺産としての日本の金銀山ー石見銀山の世界遺産登録をめぐるー」と題し、奈良文化財研究所

主任研究官の村上隆先生にお話しいただきました。

4月2日の田畑貞寿先生の講演は、予定した日程が1度目は台風、次は雪で2度の延期、3度目で実現しましたが、日程変更が重なったにもかかわらず多くの皆様の聴講がありました。

なお、この講演は記録集『金山史研究第6集』として刊行いたします。

## 甲州一両最中をご存知ですか？

ここでちょっと一息。  
当館シンボル展示の甲州金。その中の露壺両金を形取ったお菓子があるのを御存じですか？


県内南アルプス市のお菓子処「清月」さんで発売されている商品です。県内広しといえども甲州金をお菓子にしたものを買うことができるのは、こちらのお店だけ。

お土産を持っていきたいんだけど何にしようかしら？と悩んだ貴方。山梨の珍しいお土産の一品に加えてみては。

甲州金 豆知識  
甲州一両最中


甲州金は、戦国の武田信玄の時代より用いられ、主に軍用金・恩賞などに使用されました。また、その単位は後の貨幣の基本となり、金一両(四匁・15g)の四分の一が一分、その四分の一が一朱、その四分の一が一糸目と言い、「金に糸目はつけない」の言い回しはここから生まれました。そして、この純度の高い金貨は、海外へも流出し、黄金の国ジパング伝説のもととなりました。

私たちは、この伝説の甲州金を今の世に伝え、甲州人の誇りとすべく、お菓子として復刻いたしました。最中は、皮二枚と餡だけのシンプルなお菓子です。故に、原材料の善し悪しが味に出ます。皮は近江の羽二重餅(もち米)、小豆は北海道の契約農家で栽培された厳選されたもの、砂糖は甘味の爽やかな氷砂糖を使用しております。添加物は一切使用しておりませんので、安心して召し上がってください。



株式会社清月  
〒400-0301 山梨県南アルプス市桃園59-1  
電話 フリーダイヤル 0120-0826606

☆甲州金の歴史を詳しくお知りになりたい方は、  
下部町湯之奥金山博物館でご覧いただけます。  
お問い合わせ先 電話 0556-3610015



紙お菓子

# 館からのお知らせ①

## 金山史研究第5集発売開始

かねてよりお知らせしていましたが『金山史研究第5集』が、ご講演いただいた講師の先生方のご協力をいただき、このほど刊行いたしました。今回は2年度分が一緒になった合併号となっております。

どうぞご活用ください。内容は次のとおりです。

- 書名 『金山史研究第5集～平成13年度記念講演会と平成13年度・14年度公開講座の記録～』
- 体裁 A4版236ページ(カラー図版8ページ)
- 定価 2,100円(会員価格1,800円)
- 掲載内容  
論文「密度測定法による甲州金の品位分析ー奥山コレクションを中心にー」  
西脇 康・小松美鈴・今村 徹

第4回企画展記念講演「国指定・県指定文化財の意義」 末木 健

### 平成13年度公開講座

- ・「湯之奥型、黒川型、リンス式定形型」挽き臼の特質と実際 谷 口 一 夫
- ・比重選鉱の方法と理論と実際 斉 藤 勝 幸
- 砂金掘り友の会による特別コラム ①「砂金採集の道具」 野 村 敏 郎
- ②関東周辺の砂金産地について 大 森 直 之
- ③メガネ掘り(ガラス掘り) 広 瀬 義 朗
- ・灰吹法の理論と実践 伊 藤 博 之
- ・色揚げ技術の理論と実際 伊 藤 博 之
- ・文献に表れた甲州金と現物貨幣 西 脇 康

### 平成14年度公開講座

- ・河内の諸金山～早川町の諸金山 野 沢 昌 康
- ・中山金山遺跡出土陶磁所見 加 藤 為 夫
- ・湯之奥金山と学校教育～郷土に取材した総合学習の試み～ 二 宮 美 仁
- ・穴山梅雪と金山～文献から見た穴山氏と金山～ 平 山 優
- ・甲斐金山研究の展望 萩 原 三 雄

## 湯之奥金山資料館客員学芸員について

学芸員資格を持ちながら、博物館活動の場がない学芸員さんに、学芸活動する場の提供です。募集対象は学芸員資格を持つ人で年齢・性別は問いません。募集人員は3人で、募集枠が埋まった時点で締め切りとさせていただきます。客員学芸員の任期は1年間。また、同時にボランティア学芸員としてペーパー学芸員さんの登録もいたします。実際に博物館の現場に触れてみませんか。グループ活動や勉強会もいたします。詳細は当館までお問い合わせください。



いろんなイベント企画にアイデアを活かしてみませんか。

## 「山梨の遺跡展2004」巡回展開催のお知らせ

山梨県埋蔵文化財センターのご協力のもと、「山梨遺跡展2004」の各遺跡・遺構のパネルや資料の巡回展を開催いたします。

観覧無料です。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

巡回展「山梨の遺跡展2004」

期 日：平成17年4月29日(金)～5月31日(火)まで

場 所：湯之奥金山博物館多目的ホール

対象遺跡：

塚越遺跡、足原田遺跡、小井川・小河原遺跡、  
鯉沢河岸跡、勝沼堰堤、玉川金山遺跡、銚子  
塚古墳、百々遺跡6、堤防遺跡、甲府城跡、  
原町農業高校前遺跡、天神堂遺跡、向原遺跡、  
平田宮第2遺跡など。

## 館からのお知らせ②

### 平成17年度友の会会員募集中

湯之奥金山博物館友の会とは「博物館を通して学習する会」のことで、新年度に切り替わり、友の会も会員更新・新規入会の時期となりました。ご入会いただくと、年会費及び特典は次のようになっております。

年会費：大人一般（高校生以上）1,000円      小学生      300円  
          家族会員      2,000円      特別賛助会員      5,000円

特典：  
・博物館常設展示・企画展示の無料観覧。  
・「博物館だより」「友の会だより」及び各種情報や事業案内のお知らせ。  
・『金山史研究』などの博物館刊行物が会員価格1割引でご購入いただけます。

会員期限はご入会いただいた日から、平成18年3月末日までとなります。ご入会を希望される方は、博物館まで御連絡ください。また博物館窓口で直接も受付いたしております。その他ご不明な点がございましたら当館までご連絡ください。

多くの方のご入会をお待ちしております。

## 博物館日誌 (平成17年1月～3月)

30日(水)	26日(土)	20日(日)	15日(火)	14日(月)	8日(火)	3月1日(火)	5日(土)	28日(月)	27日(日)	25日(金)	20日(日)	14日(月)	10日(木)	8日(火)	6日(日)	2月5日(土)	29日(土)	28日(金)	22日(土)	15日(土)	13日(木)	8日(土)	1月2日(日)
湯之奥金山博物館運営委員会	NHK取材	YBS山梨放送取材	玉幡中学校1年生県内めぐり	身延西小学校3年遠足	一宮小学校遠足	雑誌『FENEK』取材	静岡ラジオ 放送	リバーサイドパークイルミネーション	第1回富士川流域王国シンポジウム	植栽手入れ	イベント広場にて氷の彫刻作り開催	配布	宮城県・志津川町教育委員会視察	朝日新聞取材	悪魔払い天狗の舞	第39回公開講座・講師 村上 隆氏	第4回富士川流域王国会議	『館だより31号』発刊	第38回公開講座・講師 小和田哲男氏	TBS世界ふしぎ発見 甲州金撮影	るるぶ取材	お山飾り・団子づくり	仕事始め

### 編集後記

例年よりも気温が低く桜の開花がいつもより遅いということも言われた今年ですが、その後、日中気温がどんどん上がり、リバーサイドパークの桜も一気に開花。4月中旬には満開となりました。リバーサイドパーク駐車場から博物館までの道のりが「結構あるね」というのは誰と



もなく、よく言われることなのですが、桜から新緑の季節にかけては、多くの方がこの距離を楽しんでくれます。

さて、博物館も新年度。新たな事業を計画しておりますので、博物館情報も注目していただきます。

## 博物館だより 第32号 平成17年3月31日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館  
博物館HPアドレス [http://www.town.minobu.lg.jp/local\\_minobu/kinzan/index.html](http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html)